

木造住宅・木造建築物等の整備促進に関する調査・普及・技術基盤強化 成果報告書

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する普及を行う事業 「木の建築フォーラム／つくば」の開催
事業者情報	事業者名：特定非営利活動法人 木の建築フォーラム 事業担当者名：事務局担当理事 松留慎一郎／会計書類作成 事務局 石村葉子 連絡先：03-5840-6405
補助事業の区分	木造住宅・建築物等の整備推進に関する ①調査を行う事業 ②普及を行う事業 ③技術基盤強化を行う事業 以上の①から③の中から該当するものを選択し、○をつけて下さい。
<p>1. 事業の概要</p> <p>■テーマ よくわかる木のはなしー木材および木質材料に関する知恵と知識ー</p> <p>■開催時期 2011年2月25日(金)、26日(土)</p> <p>■場所 2月25日(金) (独)森林総合研究所(茨城県つくば市松の里1) 2月26日(土) 牛久市中央生涯学習センター(茨城県牛久市柏田町1606-1)</p> <p>■主催 特定非営利活動法人 木の建築フォーラム</p> <p>■後援 独立行政法人 森林総合研究所、牛久市、一般社団法人 木を活かす建築推進協議会、林野庁</p> <p>■趣旨 『第14回木の建築フォーラム／つくば』では、木材・木質材料の研究者にレクチャー等をおおして、木材・木質材料に関する知識の再確認をおこなう。また、普段、木材・木質材料を使われている方々に、木材・木質材料との係わりについて発表してもらい、それにもとづいた木材・木質材料に対する質疑応答や議論を通じて、木材および木質材料について深く考える機会を提供することを目的としている。 今回の事業では、独立行政法人森林総合研究所の見学会と木材および木質材料に関する講演会、パネルディスカッションを二日間にわたり実施する。参加者が、初日の見学会で、木材および木質材料に関する研究蓄積や最新の研究動向を体感することにより、二日目の講演会、パネルディスカッションに、より興味をもって臨むことができると期待される。見学会と講演会、パネルディスカッションがセットになっていることが本事業の最大の特徴である。</p>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する普及を行う事業 「木の建築フォーラム／つくば」の開催
<p>2. 事業で得られた成果</p> <p>NPO木の建築フォーラム主催の『第14回木の建築フォーラム／つくば』は、『「よくわかる木のはなし」—木材および木質材料に関する知恵と知識—』というテーマで、2011年2月25日(金)に(独)森林総合研究所(森林総研)見学会、26日(土)にシンポジウムが開催された。</p> <p>1日目の見学会には定員(30名)を超える応募があり、52名もの参加があった。4時間もの長時間にわたり、森林総研所蔵の標本や樹木園、施設、世界最大級の木材引張試験機による集成材の引張試験の実演や本邦初の構造用集成材等の見学がおこなわれ、最新の研究成果等を見学することにより体験してもらった。例えば、森林総研主催の設計コンペで最優秀賞を獲得し森林総研の敷地内に実際に建設された実験住宅(通称:近未来の木造住宅)は24mm厚の構造用合板耐力壁と快適性を担保するための土壁を併用している点が特徴であり、この住宅の見学では参加者から多くの質問があるなどの質疑応答が活発におこなわれ、予定の見学時間があっという間に過ぎてしまうほど熱心で活発な見学会であった。また、見学会後の情報交換会には、京都や愛知、山形、福島などの遠方から参加があった一方、森林総研の研究員を始め地元からの参加者も多くおり、バラエティに富んだメンバーが意見や親交を深める有意義な情報交換の場となった。</p> <p>2日目のシンポジウムには、101名の方の参加があった。司会による開会・趣旨説明の後、坂本理事長から挨拶があり、引き続き、森林総研の研究コーディネータである林知行氏より「今さら人には聞けない木のはなし」と題する講演がなされた。林氏は軽妙な語り口で樹木・木材・木質材料に関する基礎知識について話をされ、会場みなさんも林氏の話に引き込まれているようであった。午後からは、河合直人氏の司会でパネルディスカッションが行われた。宮内建築の宮内寿和氏は、「大工が取り組む木材の品質管理」というタイトルで水中処理乾燥等の実践を紹介した。松井郁夫建築設計事務所の松井郁夫氏は、木の家に住みたいと考えている住まい手と腕をふるいたいと考えている作り手のギャップを埋める作業を「木組の家」で行っていると紹介しながら、その必要性を指摘した。(株)木質環境建築の川原重明氏は、「私と木材・木質材料との係り」のタイトルで、自分の仕事の一端を紹介しながら木材及び木質材料への期待を強調した。森林総研の長尾博文氏からは「製材の品質と強度」のタイトルで製材の強度に及ぼす因子について、桃原郁夫氏からは「木材の耐久性」のタイトルで腐朽やシロアリ対策の考え方や保存処理剤の安全性について、渋谷龍也氏からは「構造用面材料」というタイトルで合板、OSB、パーティクルボード、MDFの特徴とデータの蓄積状況について、それぞれ、話題提供がなされた。その後、話題提供された内容をもとに総合討論となり、活発な意見交換が行われた。</p> <p>最後に、有馬代表理事が、「木材・木質材料に対する思いは人それぞれであり、それぞれの分野では専門家である。しかし、自分の知っている範囲でしかものを語れず、それをはずれたらみんな素人であることを認識する必要がある。それぞれが使っている単語の了解点をもつことが重要であり、そのためにはざっくばらんな話をするなどの意見交換をおこないネットワークを組むことが大切である。」とまとめた。</p> <p>なお、写真を含む事業報告は以下のURLで閲覧可能とし、また全記録は「NPO木の建築30号」に収録し木の建築フォーラム事務局にて公開する。</p> <p>URL : http://www.forum.or.jp/dl_files/111129_tsukuba.pdf</p>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。

事業の名称	木造住宅・建築物等の整備推進に関する普及を行う事業 「木の建築フォーラム／つくば」の開催
<p>3. 今後の展望及び成果の普及方法</p> <p>今回の事業の成果は、NPO 木の建築フォーラムにおける会報「フォーラム通信No. 59」にて会員に報告するとともに、同じく機関誌「NPO木の建築29号」に詳細に記録を掲載して会員および全国の公立図書館など会員以外の定期購読者等を通じ広く普及する予定である。</p> <p>さらに、本事業と同時に作成した「資料集」「報告書」とともに、NPO 木の建築フォーラムのホームページにて本事業の成果等の情報を掲載して広く一般にも普及をはかる予定である。</p> <p>また、引き続き来年度にも、木材と木造建築に関わる適切なテーマにて同様な事業を開催するなど、「木造住宅・建築物等の整備推進に関する普及」に関しての事業をさらに推進していく予定である。</p>	

※本報告書は各ページ毎に1つの項目を記載することとし、全3ページとする。なお、本報告書以外にも別添の資料がある場合は2枚を限度に本報告書に添付すること。